

“^{やど}智頭町木の宿場プロジェクト”の実施経過

智頭町木の宿場実行委員会

1 智頭町百人委員会農林業部会での議論（平成 21 年度）

- 山の仲間づくりにより、放置された智頭の山を間伐して美しくすることを目的に、第 1 回目の部会で“土佐の森救援隊方式”を智頭に導入することを目指すこととした。
- まずは先進地から学ぶため、10 月に高知県仁淀川町の NPO 土佐の森救援隊を視察し、その結果を踏まえて具体的手法や活動内容を検討。
- 百人委員会として約 1 億円の木質[※]伐採内需型「森林再生プロジェクト」企画書を町へ提出したが、不採択。
- 3 月に岐阜県恵那市の木の駅プロジェクト報告会に参加し、再度 より具体的なアイデアを吸収。

2 百人委員会との協働の始まり（平成 22 年度）

- 百人委員会農林業部会で再度検討の結果、間伐推進と町内活性化主体の「木の宿場プロジェクト」を推進する事を 6 月に決定し、具体的な進め方を検討。
- 4 月には、NPO 法人賀露おやじの会の藤田氏、丹羽氏、鳥取大学地域学部の家中准教授らから町長に、森林山村再生に向けて提案があり、7 月に「智頭林業活性化講演会」を開催。（約 100 名参加）
- これらのメンバーが 8 月に農林業部会と合体し、実行委員会発足へと発展していくこととなった。（百人委員会は提言機関であり、実行機関ではないため）

3 実施経過（平成 22 年度）

- H22. 8. 11 木の宿場実行委員会幹事会（第 1 回）
 - ・対象者、対象木、集荷形態、広報、出荷者への還元額、目標集荷量（100 t）ほか
- H22. 8. 26 木の宿場実行委員会幹事会（第 2 回）
 - ・放置材の取引単価（6,000 円/t）、集荷目標（150 t）、ストックヤードの場所、役割分担ほか
- ◎ H22. 9. 13 木の宿場実行委員会設立（23 名）
農林業部会：16 名、おんな山師集団：1 名、NPO 賀露おやじの会：2 名、鳥取大学：1 名、鳥取環境大学：1 名、智頭町役場：2 名
- H22. 9. 14 木の宿場プロジェクト説明会（対象：出荷者、商店：約 40 名出席）
- H22. 9. 21 木の宿場実行委員会幹事会（第 3 回）
 - ・社会実験に向けた具体的な打合せ（段取り、役割分担等）
- H22. 10. 16 木の宿場社会実験出陣式（軽トラ 23 台が結集）
集荷実験：10/16～11/14、地域通貨流通実験：10/16～11/28
- H22. 10. 20 木の宿場実行委員会幹事会（第 4 回）
 - ・出材状況、商店の登録状況
- H22. 11. 5 木の宿場実行委員会幹事会（第 5 回）
 - ・出材量、社会実験終了後の作業、来年度の取組
- H23. 1. 24、2. 22 木の宿場実行委員会幹事会（第 6 回、第 7 回） 木の宿場報告会等の打合せ

【智頭町木の宿場プロジェクトの特徴】

- ① 百人委員会農林業部会での土台があり、そこに“よそ者”のノウハウとパワーがミックスされて実を結んだもの。（先行事例のノウハウ伝達、実施指導、資金協力、人材協力など）
- ② 志高く、かつ楽しみながら、約 2 ヶ月間という極めて短期間で実施にこぎつけた。
- ③ “志”と“信頼関係”を前提に、智頭ならではの特徵として進化中。→ 性善説に基づくシステム
- ④ 実行委員会には、森林組合、第三セクター（㈱サングリーン智頭）、NPO、大学などの公的機関が参画し、機動的に動く体制が整っている。
- ⑤ 行政（役場）も実行委員会に参画し、補助金による支援にとどまることなく、“志を一つにする仲間”として積極的に関与。